



平成29年 新年にあたって

あけましておめでとうございます。

昨年度は熊本や鳥取での地震、地球温暖化によるとみられる異常気象・自然災害の多発、環境保護（保護）の大切さを痛感した1年でした。都市化が進む京田辺市ですが残された自然を大切にガイド活動を進めていきたいと思えます。

当協会も今年で発足10周年目を迎えます。昨年度は6期生の養成講座を終え新たに12名の新会員を迎え総勢42名の大所帯へと発展してまいりました。また観光協会が法人化され、私たちボランティアガイド協会との新たな関係が模索された年でもありました。今後、新たな関係のもとでの観光協会との連携を一層強めていきたいと思えます。

本協会の機構もこれらに合わせ改善が進み、我々が精一杯活躍できる条件が整ってきました。今後は、各自の能力を伸ばし、益々の研鑽・努力をもって京田辺市の自然や文化遺産（神社仏閣や史跡など）を ①いかに簡潔で ②内容豊かで ③わかり易く ガイドできればと思っています。

市民の皆様や市外からの観光客の方との出会いをもとに「京田辺」の活性化・町おこしに少しでも寄与できればと思えます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

副代表 石橋伸一



「観光ボランティアガイド養成講座」を受講して

半年ほど前のこと、バス待ちの停留所の掲示板に当講座の案内が貼ってありました。当時私は、京田辺に住んで長くなるのに地域のことを何も知らないのをいささか後ろめたく感じていました。そんな時に見たのがこの貼り紙でした。はじめは敷居が高いのでは？と思いましたが、思い切って入らせてもらってよかったです。メンバーの方は優しい方ばかりです。そしてお詳しい。

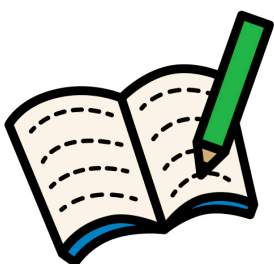
私自身の性格と趣味をかえりみると、いささか「オタク」っぽいところがあります。このまま人生を送ることは自分によくなく、また何歳になってもそれなりにひと様のお役に立ちたいと思っていましたので、ちょうどよい機会だったのです。

講座は講義七回と現地見学二回の計九回。運悪く酷暑のころでした。しかし温かい先輩のおかげで無事修了できました。その後六期生として入会させていただき、現在は研修中です。ほんの見習いの段階です。まだ機構のこと、ガイドすべき観光資源のことなど知らないことばかりです。（じつを言うと・・

一休寺のことは知っていて知人を何回か案内しましたが、最近まで正式名があるのを知りませんでした、そんなレベルだったのです）。

これからはなるべく早く「見習い」を終えて、すこしでも地元のお役に立てるように努めたいです。そのためには、自分の課題はまずひと様の前でゆっくりやさしく話すことだとわかってきました。体力、知力の問題もあります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

6期生 常見 琢夫



ガイド日誌



「応神の洒・仁徳の蚕糸・ 継体の宮跡を訪ねて」 10月9日

前夜から早朝にかけて大雨が降り続き受付時も小雨が降る中参加者があるのか懸念していたが、幸いにも26名の参加があり2班構成で出発した。雨も徐々に止み天候が回復する中、初めに同志社大学キャンパス内の筒城宮伝承地を訪れ、宮の位置は不明であり京田辺市内には8の候補地があることなどを説明。

次に酒屋神社では古来より酒造神として崇敬されてきたことや本殿などの説明。そして大御堂観音寺では希望者が本堂で住職からの説明があり、国宝の十一面観音立像を拝観後、創建当時は七堂伽藍を擁し「筒城の大寺」と言われ度重なる大火にも興福寺の別院であったため藤原氏の援助を受けて再建されたことなどを説明。

次に平安末期に摂政・関白になった藤原基通（近衛家の創始者）公の廟を訪ね、続いて日本最初外国蚕飼育旧跡では帰化人の奴理能美がこの地で絹産業を営んでいたことや仁徳天皇の皇后・磐乃媛の話をし、その後浅井光正の築城と伝えられる南山城跡を訪ねた。

続いて秋祭りが行われていた佐牙賀神社に到着、やや疲れ気味であったが、昼食後酒造りの神として信奉されていたことや本殿の説明。そして佐牙神社のお旅所である山本の「百味」などを鑑賞、寿宝寺では主に重要文化財の十一面千手千眼観音立像を拝観し、本日の日程を終了した。（西村）

「お茶どころバス」 10月15日

参加者は思っていたより少なかった。1時間の見学にもかかわらず、参加された皆様はお茶に興味をお持ちの方が多かった。京田辺は玉露生産でNo.1と説明し、実際の玉露の畑を見学され、改めて感激されていたようであった。そして、普通の茶畑と玉露の茶畑の差や、特に寒冷紗の事についても説明すると、大いにご興味をもたれたようであった。

また、穴山梅雪のお墓を案内したが、NHK大河ドラマ序盤に登場していたせいか、名前をご存じで、墓をご覧になり、改めて感激されていた。さらに、飯岡のお茶以外のゴロゴロ山古墳や、トツカ古墳等の案内をしたが、こんなところに古墳があることに驚かされていた。その墓は継体天皇の関係者と説明したが、継体天皇の認識はあまりなかったようである。

他に京田辺の印象を伺うと、一休寺はよく知っておられた。今回はお茶でアピールできたが、今後は他の観光資源も、もっと活用したいと感じた。（田原）

ガイド研修

「京都御苑歴史散策」 10月23日

地下鉄丸太町で下車。現地で2班に分かれて、歩き始める。ガイドは、「京都観光文化を考える会・都草」専務理事 田村光弘氏、と「京都再発見」代表 亀田正昭氏である。（サブガイドの新井氏も同行）

簡単な解説と写真のついた「京都御苑歴史散策マップ」をいただく。①から⑮の案内ポイントと地図が描かれていて、とてもわかり易い。

スタートは閑院宮邸前から。ここは現在の天皇家につながる宮家として、大切に残されていることを知る。閑院宮邸を出ると、建礼門までまっすぐに伸びた大通りに入る。終戦後、進駐軍が飛行機の滑走路にという話があったが、御所の真上を通るということで、さすがに取りやめになったとか。代替えとなった二条城前の道路をセスナ機が発着しているのを北野の市電から見たことを思い出す。

高倉橋を渡って、九条邸跡に入り、橋の上から茶室や巖島神社を臨む。秋の紅葉時期に改めて訪れたい思いにかられる。庭園を出ると、堺町御門の壮大な高麗門に圧倒される。ここで「七卿落ち」の話聞く。

鷹司邸跡を経て西園寺邸跡へ。西園寺家は琵琶の宗家で弁財天を祀ること、立命館の名前はここの私塾から来ていることを知る。枇杷殿跡と中世の文学者とのつながりを学び、蛤御門に至る。この名前は「焼けて口開く蛤」から付いたことや、禁門の変の舞台であったことを知る。

禁門の変を見てきた清水谷家の椽を経て、豪華な建礼門を見る。川餅を献上したという「道喜門」と名付けられた穴門を見る。そのあと学習院跡を経て皇女和宮の生家と言われる橋本家跡で、公武合体政策に翻弄されて家茂に嫁いだ和宮の話聞く。

このあたりであろうか。終戦直後の混乱期、御苑も草ぼうぼうの時代があり、当時中学生に清掃奉仕が課され、草引き作業に駆り出されたことがあったのを思い出す。



次いで御所の鬼門猿が辻での事件を聞き、角が切りこまれた塀、御幣を持った木彫りの猿を見る。明治天皇誕生の地、中山邸跡を通して近衛邸跡でガイドさん

とお別れとなる。ありがとうございました。（岸田）

平成29年
今後の行事 見どころ!

Coming
Soon!

1月28日(土)

「京田辺の古代史の 謎を巡る パートII」

謎多き天皇、継体天皇の都を訪ねて歩きます。日本書紀によれば、継体5年冬十月に、都を山背の筒城に遷す。12年春3月丙辰の朔甲子に、遷りて弟国に都すと記され、ここ綴喜の地に7年間都が置られました。謎の多い継体天皇。筒城の宮は何処。

現在、郷土史家の説・大学先生の説・6世紀前半の土器出土地また地名等から8か所挙げられています。確たる証拠は残念ながらありません。今回そのうちの4か所をめぐる。皆さんはどこが本命と思われるでしょうか。いにしえのロマンに浸ってみてはいかがでしょうか。(土居)

2月11日(土)

「竹の里京田辺 二月堂お水取りの 竹送りを訪ねる」

毎年この日に大御堂観音寺で「竹送り」の行事が行われます。お水取りでお松明として使用される根付きの竹を東大寺二月堂へと送り、奉納します。この行事を中心に、竹と縁の深い京田辺の名所を巡ります!

観音寺はかつて七堂伽藍を持つ大寺であり、国宝の十一面観音像が安置されています。

日本最古の物語「竹取物語」には京田辺に関連するような人名や地名が登場し、「かぐや姫の里」候補地の一つです。

JR三山木駅南側には「大筒木の館」の伝承もあり、この地方「綴喜郡(大筒木)の都」の地名の由来とも言われ、「竹取の翁」はこの地方の長ではなかったかとも考えられます。

また「古事記」の中には、竹取の翁とかぐや姫と思われる人物として、第9代開化天皇の孫「大筒木垂根王(おおつつきたりねのみこと)とその娘「加具夜比売命(かぐやひめのみこ)が古代の豪族として記述されています。

「竹取物語」には「翁の名をばさかきのみやっこまる」といい その家については山もと(山本)の近くなり」とあります。奈良時代の山本地区には奈良の都よ

り山陰道などの主要官道が敷かれ、山本駅は東西南北に分岐する交通、運搬、情報の要衝でした。また環郷集落となっており見応えがある地区です。

また竹取の翁は普賢寺、興戸、三山木、飯岡の「竹林の都」の長、あるいは山本駅の長、また近くの佐牙神社の太夫であったとも推察できるのです。

また壽宝寺(山もとの大寺)や、かつて桜の名所でもあり、鶴が飛来していたという鶴沢池の跡地と木津川に面した美しい飯岡山を目の当たりにします。

継体天皇が宮を設けた場所の候補地といわれる同志社大学の辺りも訪ねます。

「竹取翁博物館」にはかぐや姫関連の文献資料や各種絵図などもあり、小泉館長からお話を伺います。

さまざまところで「竹の里」を感じる1日となることでしょう!(江守)

3月4日(土)

「玉露の産地京田辺で 茶畑と玉露を親しむ」

毎年、多くの人々が参加していただいているイベント「京田辺の名所を巡り、京田辺の名産品玉露の淹れ方教室」です。

2017年は「お茶の京都」の年です。2016年4月に日本で最初の「日本遺産・日本茶800年の歴史散歩」に京都山城地区が認定されました、京田辺においても飯岡の茶畑が認定地区に入りました。その飯岡地区には多くの古墳群もあり、静かな茶畑の中にいにしえの歴史を感じていただけます。

JR三山木駅で集合し、国の重要文化財である十一面千手千顔観音立像のある壽寶寺を拝観。(実際に千本の手を持つ観音様は日本には3体しかなく、そのうちの1体が安置されている。)そこから飯岡の茶畑、古墳群を巡り、この地で命を落とした穴山梅雪(本能寺の変後、家康と同行したが一日遅れで通過したため命を落とした)の墓を見聞します。その後、草内地区の作岡神社・法泉寺を巡り、京田辺市の中部住民センターにおいて、日本茶インストラクターによる美味しい玉露の淹れ方、嗜み方教室を受講します。お茶屋さんで買い物を済ませ、京田辺駅にて15時ごろ解散です。約7kmのコースとなっています。

寒冷紗で覆われる前の茶畑を見てみませんか。きっと、楽しい一日が過ごせると思います。京田辺観光ボランティアガイドスタッフが駅から駅までご案内いたします。

京田辺が初めての方でも大丈夫です。ご参加をお待ちしております。(新井・園上)